

北海道駒ヶ岳

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況（2021年7月～2022年6月）

2021年7月以降の発表履歴	現在の警報・予報（噴火警戒レベル、キーワード）
変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）

○2021年7月～2022年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口のごく弱い噴気が時折観測されました。山麓に設置した監視カメラでは噴気は観測されませんでした。

2021年9月2日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、前回（2021年1月）の観測と比べて、昭和4年火口をはじめとする山頂火口原内の各火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6～7）

山体浅部の火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

2021年12月、2022年3月及び6月に西側及び北側の深い領域を震源とする地震活動がみられました（最大規模マグニチュード1.4）。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図8）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

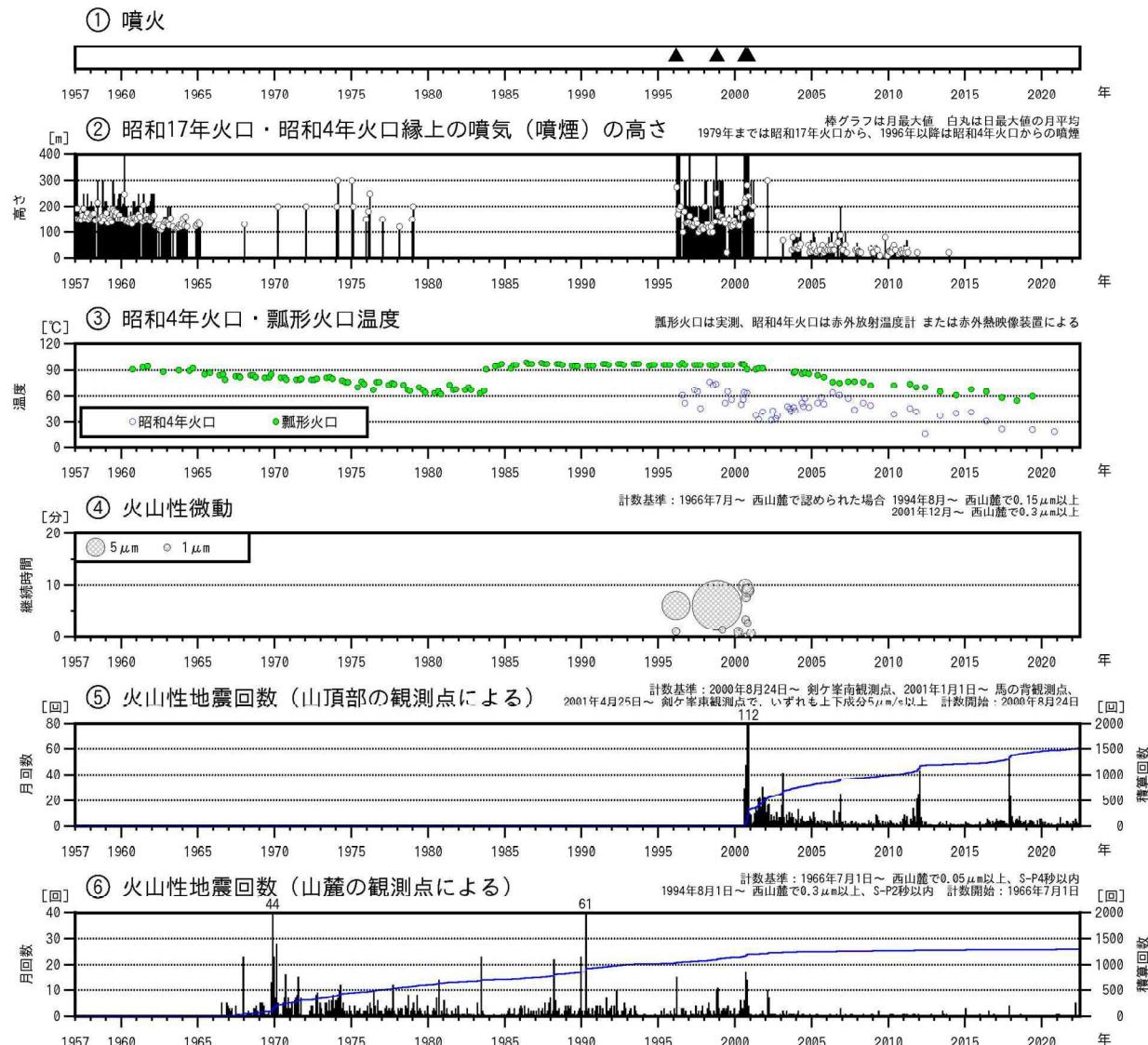


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2022年6月）



図2 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況
(剣ヶ峯監視カメラによる)

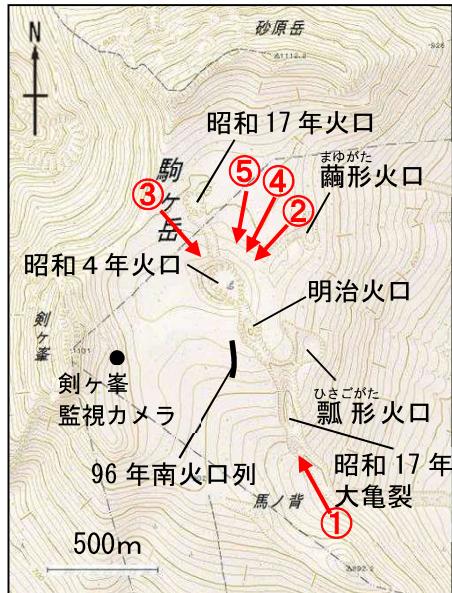


図3 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



南東側上空（図3の①）から撮影



図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の状況

上：南東側（図3の①）から撮影 左下：北東側上空（図3の②）から撮影 右下：北西側上空（図3の③）から撮影
・昭和4年火口内でごく弱い噴気（破線円内）が認められましたが、前回（2021年1月）の観測と比べて、状況に特段の変化は認められませんでした。



熱映像の赤枠部分を拡大した可視画像

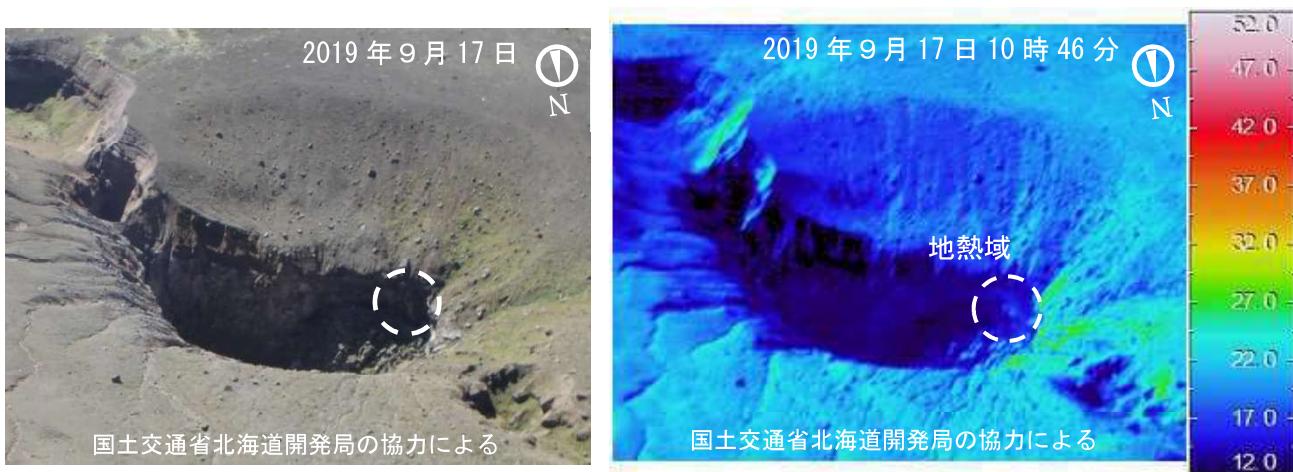


図5 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の地表面温度分布

上：北東側上空（図3の④）から撮影 下：北側上空（図3の⑤）から撮影

- 昭和4年火口では、南側火口壁にごく弱い地熱域（白破線内）が引き続き認められました。